

## (7) 川登小学校

学 校 長 北代 大  
校内研究代表者 沖 文恵

### 1. 研究主題

「課題意識を持ち、自立（律）して仲間とともに活動できる児童の育成」  
～話す・聞く・書くを通して、対話し思考する表現活動～

### 2. 主題設定の理由

本校の児童は、家族的雰囲気の中で、学年、男女を超えて、お互い遠慮せずに仲良く過ごしている。また、与えられた課題や指示されたことには真面目に取り組む素直な姿がみられることが多い。しかし、繊細な部分を持ち、忍耐強く継続的に自分で調整しながら進める面は、弱いところがある。

昨年度は、課題に向けて共通理解をはかり、見通しを持って学習に向かい努力してきた。学習面では、基礎的な問題は、概ね理解しているが、思考を要する問題でつまずく傾向があったので、自らの課題を振り返り、今後の学習や活動に生かしていく力の育成に取り組んできた。上級生になって少しずつ、考えて行動できる部分も見られ始めた。また、発表朝会やスピーチ活動・「ほわっとの木」や教科での振り返り活動・行事前後の目標設定と振り返り活動・ノート指導・新聞づくりなど、話す・聞く・書く活動に取り組み、徐々に向上してきている。

今年度は、主体的に自分の課題を見つけて修正、整理していくなど、自ら調整する力を育てていきたい。記述問題などでは、日頃から適切な言葉を用いて文の構成を意識し、自分の思いや考えを他者に伝えられるよう取り組んでいく。また、客観的に振り返り表現できる力を書くこと・話すことを通して育て、間違いがあれば、そのままにせず、進んで直していく力を育てていく。

生活面では、他者に優しく親切に対応できる面を持っている一方で、自分のことでいっぱいになり、人の話や思いに気づけない場面がある。そこで、学習面とともに、人の話を聞く事に重点を置き、対話を通じた深い学びに向けて指導していく。

本年度の児童は、あおぞら学級（5年生1名）、複式学級（1年生1名、6年生3名）の2クラスとなり、あおぞら学級の児童が一人学級となるため、特に仲間づくりを大切にしていけることが重要である。

上記の現状を考慮し、対話し思考する活動となるためにも、個が自立（律）して仲間と関わっていく力を確立していく必要がある。

また、仲間づくりにおいては、1年生や特別支援学級の児童に配慮ができる視点を持ち、上級生として、仲間の困り感を自分事として共に考えていくことができる児童を育てていきたい。そして、仲間づくりの授業を継続し、「ほわっとの木」の取り組み等で、友達同士の温かいかわりへの意識づけを見取り、これまでの研究成果をもとに、継続、発展させ、特性や強みを生かした学校づくりに取り組んでいきたい。さらに、休校に向けた取り組みとして、ふるさと教育・学校新聞づくりの総仕上げを行うことにする。

以上を、今年度の研究主題とし、研究を進めていく。

### 3. 研究の進め方と方法

- (1) 水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。  
ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。
- (2) 研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録も含め、輪番制で担当する。
- (3) 研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。  
各1回は全校での教材研究・学習指導案の作成、研究授業、反省  
各1回は全校での教材研究はせず、略案の作成、公開授業、反省  
反省は、授業力チェックシートを基にする。
- (4) 研究授業は西部教育事務所の指導主事あるいは外部講師を招聘して研究の質を高める。

- (5) 月に1回程度、定期的に各学級の実態を出し合う場を設け、学級の実践や仲間づくりについての共通理解を図る。

#### 4. 研究仮説

- (1) 課題やめあてをしっかりと押さえ、間違いを大切にし、自らの学習を振り返り、言語活動を明確にした授業づくりを行えば、主体的対話的で深い学びをする児童が育つであろう。
- (2) 目的を持ち、仲間を思いやり、聞き合う活動を行えば、認め合い、支え合う仲間づくりにつながる。それが、何事にも協力して取り組もうとする姿勢となり、児童の達成感、更なる意欲・関心を生み出すだろう。

#### 5. 具体的な取り組み

- (1) 複式授業の工夫・改善を図り、学ぶ姿勢を身に付けさせる授業の進め方を研究する。
- ①川登小授業のスタンダード化を図り、自ら学ぼうとする学習態度、お互いに高めようとする学習態度を育てる。
- ア 同時間接学習    イ リーダー学習の手引き    ウ メニューカード  
エ めあてとまとめ（学習内容の焦点化）    オ 振り返り学習
- ②系統のかつ全校統一したノート指導をする。  
③系統的な学習規律の確立を図る。  
④ICT機器の効果的な活用を図る。
- (2) 基礎・基本を徹底し、基礎学力の定着と学力の向上を図る。
- ①授業と家庭学習の一体化、ベストノートの取組を続け、家庭との連携のもと、学習習慣を身につける。  
②帯タイム「かわベタイム」を活用し、基礎・基本の徹底を図る。（かわベプリントの活用）  
③単元テストを活用し学習定着状況を把握する。  
④読書活動の推進を図る。（読書の記録・チョモランマ・月別冊数調査・読書祭り）  
⑤ふるさと教育… NIE活動を継承し、学校新聞コンクール参加を継続し、言語活用力、読解力、情報活用力を伸ばす。（出前授業の活用・読み聞かせボランティア等）  
⑥全国学力学習状況調査、高知県学習状況定着調査、標準学力調査等の活用を図り、学習課題把握と課題解決へ向けた取り組みにつなげる。  
⑦渡り会を通して、児童生徒の共通理解を図り、小中一貫の系統的な学習の積み重ねをする。
- (3) 認め合い、支え合える仲間づくりを行い、豊かな心を育てる。
- ①全校学習・縦割り班を活用した活動・児童会を中心にした様々な活動を意図的に仕組むことで、お互いに認め合い支え合える集団作りを目指す。  
②自尊感情や自己有用感を育てる取り組みを行う。  
③あいさつ運動や返事の徹底、言葉づかいに対する取り組みを徹底して行い、自らを律しよりよい生活を送ろうとする心を育てる。  
④障害児者理解教育や道徳・人権学習を推進し、他者に対する思いやりを実践できる豊かな心を育てる。  
⑤Q-Uやアンケートなどを活用し、学級・学校集団の把握と個の状況把握を行い、改善につなげる。  
⑥小・中・地域連携の様々な取り組みを通して、保護者や地域との連携を図り、地域の子どもは地域で育てる環境を作っていく。また、「ふるさと」の良さを発見したり、再認識できる学習を仕組んでいくことで、ふるさとを大切に思う心を育てる。

## 6. 今年度の成果と課題

### 児童の成果

- 授業スタンダードの振り返りが定着したことで、表現力が向上し、多様な場面でも臆することなく話すようになってきた。
- 朝マラソンで、明確なめあてをもって走ることにより体力が付き走力が上がった。また、タイム計測するようになってからさらに向上意欲が高まった。
- 学校新聞づくりコンクールに向けて見通しを持ち長期間取り組んできたことで、意欲的に粘り強く新聞づくりができた。
- 「ほわっとの木」の活動を継続し、児童同士の関わりや頑張り、善い行い等、週1回の児童朝会で発表し合うことが、自尊感情の向上につながった。

### 教職員の成果

- 小中学校の校内研究授業を参観し合い、授業後、良い点・改善点を伝え合う事で各々の教職員の授業改善の学びにつながった。
- 仲間づくりの授業を教職員やSCと協同で行い、体験学習を通して児童の気づきを促す機会になった。
- 高知県学力定着状況調査（該当学年なし）は、教職員で問題を解き合い傾向と対策を行うことで児童それぞれの課題を自主的にノートに記録し、復習していくことを確認した。
- NIE教育に以前より取り組んできた。当時からお世話になっている講師に継続して指導いただき、新聞の書き方や作り方に役立てることができた。
- 間接指導時に児童が自主的に学習できるよう、算数の授業などでノートを提示して説明するなどICTを効果的に活用できた。

### 課題

- 研修計画の実践を落ち着いてじっくりと取り組むことが不十分だった。研修の振り返りや見直しが必要で随時内容を見直し対応する必要があった。
- 様々な行事が延期や中止になり残念だったが、日々の生活を見直す時間にもなった。
- 読書に対する興味や関心が低かったので、読書意欲を持たせるよう創意工夫する必要があった。
- だれに対してもあいさつができる取り組みの計画が足りなかった。
- 高知県安全教育プログラムの活用が少なかった。
- 長い間継続してきた特別支援学校との交流が、コロナ感染予防のために中止になり残念だった。今年で最後なので、これまでの交流の感謝をビデオレターにして届ける。